

## 私のすすめるこの1冊

宮崎 充弘 (数学科 准教授)

### 『AIに負けない子どもを育てる』 新井 紀子 (著)

本コラムのタイトルは、「私のすすめるこの1冊」ですが、今回は表題の本とそれの前著である、『AI vs.教科書が読めない子供たち』新井紀子(著)をセットでお勧めしたいと思います。以下では、表題の本を[新井 2019]、『AI vs.教科書が読めない子供たち』を[新井 2018]と引用することにします。

[新井 2018]の前半では、当時のAIに関する状況を、「ロボットは東大に入れるか」というプロジェクトを主導した新井氏なりの視点から、分析しています。精読していただきたいのは、[新井 2018]の第3章以降の、現在の子供たちの日本語能力の低下に関する指摘と、その解決策として書かれた[新井 2019]です。

両書にとりあげられている例ですが、

・幕府は、1639年、ポルトガル人を追放し、大名には沿岸の警備を命じた。

・1639年、ポルトガル人は追放され、幕府は大名から沿岸の警備を命じられた。

の2文が同じ意味であるか、との問いに対する中学生の正答率が57%に留まったということです。念のために付け加えると、同じであるか、異なっているかの2択の問題ですから、ランダムに選んでも、50%正解するわけで、43%の不正解と同数の偶然の正解がいたら、真の正解、すなわち二つの文の違いを理解して正解を解答した受験者の比率は、わずか14%であると推定されます。引用に戻ります。このことを、新井氏がとある教育委員会で話したとき、多くの委員は、試験の実施上の問題ではないかと疑ったそうですが、新井氏のすぐ後に登壇した現役の高校の国語の先生が、実際に定期試験で、上記の2つ目の文のような解答を持ってきて、「先生、どうしてこれは×なのですか?」と聞きに来る生徒が少なからずいる、「意味が違います」と言う「でも、(キーワードとなる語は)全部合ってます。部分点は出ないんですか?」と食い下がると言ったそうです。

この、キーワードのみを重視する、という学習態度は、京都教育大学で私が担当した授業科目の定期試験でもみられました。教科書の問題の中から、いくつか選んで出題すると、あらかじめ授業の中で言った上で行った試験(もちろん、持ち込み不可)で、教科書の解答を真似た解答の殆どが、キーワードだけは教科書の解答と同じですが、それらをつなぐ助詞や述語が違うので、全く違った意味の文章になっていました。日本語は、述語を中心に組み立てられ、その述語にいろ

いろな言葉が係って、文が形成されます。この点については、『日本人のための日本語文法入門』原沢伊都夫(著)(講談社現代新書)を参照してください。この係り受けの重要性は「池田を佐藤が継いだ」と「池田が佐藤を継いだ」の違いや、「ハマス幹部が殺害した」と「ハマス幹部が殺害された」の違いをみればわかると思います。どちらの2文の組も、キーワードは同じですが、文の意味は全く違います。

子供たちのキーワード重視の姿勢に関して[新井 2019]では、穴埋めプリントが影響しているのではないかと、推測しています。確かに、穴埋めプリントでは、穴に入れるのはキーワードだけで、日本語において大切な、助詞や述語はあらかじめプリントに書いてありますので、子供たちは、助詞や述語を自分で考えて使う訓練をする場を失ってしまうので、新井氏の推測どおりかもしれません。

最後に、[新井 2018]、[新井 2019]にも、間違いはあるということに注意しておきます。両者に取り上げられている例ですが、

次の文を読みなさい。

・仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適切なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

オセアニアに広がっているのは( )である。

というものがあります。選択肢は省略しますが、4つの宗教が書いてあります。しかしこの場合、「この文脈では判断できない」が正解ではないでしょうか。たとえば、次の例を考えて下さい。

・天理教は奈良県に、円応教は兵庫県、大阪府に、パーフェクトリパティ教団は大阪府におもに広がっている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適切なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

奈良県に広がっているのは( )である。

上の文脈から、「仏教」が導出できるとは思えません。

当たり前のことですが、どの本でも、そこに書かれていることのすべてが正しいわけではありません。本、新聞、そしてとくにインターネットなどを読むときは、その真偽を自分の頭で判断しながら読むことが大切であることを、最後に注意しておきます。

## ◆ 新着電子BOOKのポスターを展示しています

新規に購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」の横とその向かい側の二カ所で展示しています。各ポスターの下側にあるQRコードは切り離し可能ですので、読みたい本／興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。

なお、学外から電子書籍を利用する際は「学認でサインイン」を選択し、学内アカウントのID・パスワードを入力してください。



## ◆ 【2024年3月31日迄】情報処理学会サイトライセンスサービストライアル中

2024年3月31日(日)まで、下記対象誌の最新号がオンラインで読み放題です。「コンピュータと教育(CE)」や「教育とコンピュータ(TCE)」も対象ですので、この機会にぜひご利用ください。

- 【対象誌】
- ・情報処理学会論文誌(ジャーナル)
  - ・情報処理学会論文誌(トランザクション)
  - ・情報処理学会研究報告

【Access先】 <https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/>

\*掲載から2年以上経過した論文はオープンアクセスとなります。

\*利用は学内ネットワークからのアクセスに限ります。

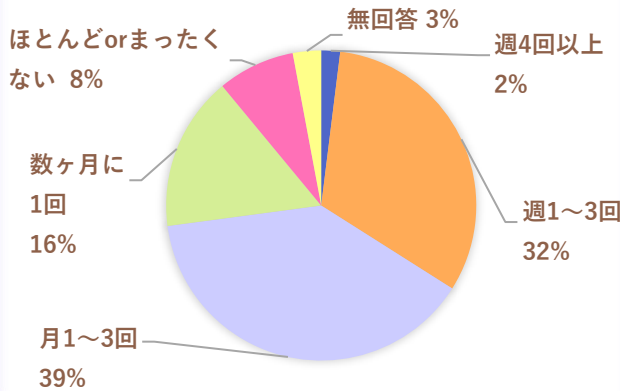
## ◆ 在学生アンケート2023を実施しました！

図書館に関する在学生アンケートを2023年3月27日から4月28日まで紙とWebで実施しました。合計509名の皆さまからご回答いただきました。

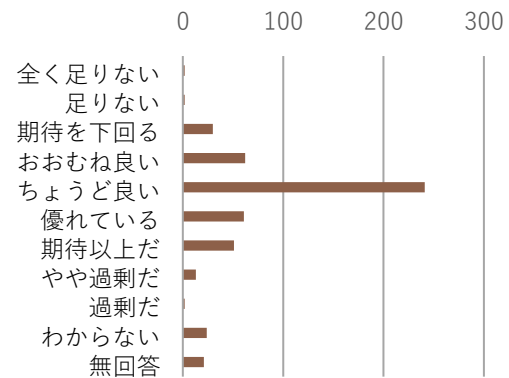
ご回答ありがとうございました。  
今後の図書館サービスの改善に利用させていただきます。  
また、3月から4月にも実施予定ですので、ご協力お願いいたします。



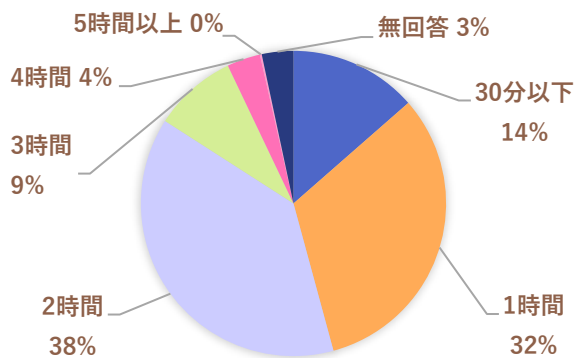
### 📖 図書館をどれくらい利用しますか



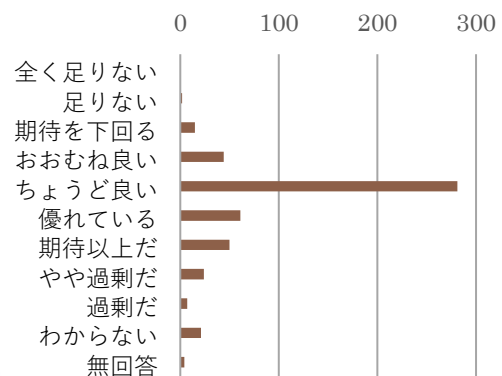
### 📖 図書館には必要な資料がある



### 🕒 図書館の1回当たりの滞在時間はどのくらいですか



### 👤 学習・研究などに必要なサービスが提供されている



京都教育大学  
それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第40回の報告

YouTubeで公開されています。

【講師】佐川早季子(幼児教育科 准教授)  
【テーマ】「みて、みて」から広がる子どもの表現の世界～「まね」は「創造」のはじまり?～

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会  
後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

※今までの回も視聴できますので、ぜひご覧ください!



学修相談カウンター

学修相談カウンターでは、京教の先輩が勉強や教育実習などいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか?

【時間】授業期間の平日 2~4限のうち該当の時間

【場所】北館 2階 ラーニングcommons

フォームでの相談も受け付けています。

※詳しくは図書館ホームページにて



QRコードからもチェックしてみてくださいね。

ブックハンティング購入展示コーナー

「図書館に置いてほしい」と思う本を、学生自身が選び、一定の条件内で購入する企画ブックハンティング 2023(後期)を実施し、展示しています!

【場所】1階渡り廊下 【期間】2月5日~

貸出できます

【2024年2月4日】日曜開館

試験期間前の2月4日(日)を9時から17時まで開館します。試験勉強などにぜひご利用ください!

附属図書館開館時間の変更について

附属図書館では、令和6年度授業期の平日の閉館時刻、土曜日の開館時刻を変更し、開館時間の短縮を試行します。変更後の開館時間は以下のとおりです。令和6年4月からの試行実施にむけて、ご理解のほどよろしくお願いたします。

		変更前	変更後
授業期	平日	9時~21時	9時~20時
	土曜	9時~17時	10時~17時
休業期	平日	9時~17時	9時~17時
	土曜	休館	休館

春季休業に伴う長期貸出について

学部生:1月27日(土)~4月3日(水)

院生・教職員:1月15日(月)~3月19日(火)

【返却期限日】4月18日(木)



展示案内

京都教育大学 附属学校園こども美術作品展

【会期】2月6日(火)~2月13日(火)※最終日は15:00迄

【場所】企画展示室(北館1階)

さんぼみちー小学校教科内容論音楽「記譜」課題ー

【会期】1月24日(水)12時~2月9日(金)12時まで

【場所】リフレッシュラウンジ

好評開催中! ※本学は参加館です。

◆第11回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリーー

2023年9月23日(土・祝)~2024年3月25日(月)まで

◆第27回京都ミュージアムロード スタンプラリーー

2024年1月24日(水)~3月17日(日)まで

児童書コーナー (南館1階)

幼児教育科主催  
えほんのもり

今月の絵本カード(学生作)

『おじいちゃんがおばけになったわけ』

作:キム・フォップス・オーカソン

絵:エヴァ・エリクソン

出版社:あすなる書房



※児童書コーナーに  
かわいいカードが  
飾られていますので、ぜひ見に来て  
ください。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【2月の開館日時】

5日(月)、12日(月・振替休日)、19日(月)  
14:00~17:00

書作展の作品の一部をご覧いただけます

「退職記念 岡田直樹 書作展」

会期:令和6年2月15日(木)~18日(日)

午前10時~午後5時、最終日は午後4時まで

会場:京都教育大学 まなびの森ミュージアム

主催:「退職記念 岡田直樹書作展」実行委員会



教育資料館 まなびの森ミュージアム

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **佐藤 克敏** (発達障害学科 教授)

### 知的障害特別支援学校生徒のQOL向上を図る学校教育実践に関する研究 －新設した課外活動(部活動)を通して－

木田 泰介・木村 進哉・佐藤 克敏

京都教育大学紀要 2023, No.143, pp. 71-82  
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9822>



QOLという言葉聞いたことはありますか？QOLとは Quality of Life の略で生活(もしくは人生)の質と訳され、どの程度生活に満足しているか、満たされた生活をしているかということを示しています。WHO では、QOL の質問票を作成していて、質問票は「身体的領域」「心理的領域」「自立のレベル」「社会的関係」「生活環境」「精神性/宗教/信念」の6領域で構成されています。ではQOLを高めるにはどのようなことが大事になるでしょうか？その人が何を大切にしているかによって異なると思いますが、充実した生活を送れているということが大事な視点となると考えます。

本論文は、学校で行う部活動が知的障害のある生徒のQOLを向上させるかということ明らかにするために、1年間部活動に参加した生徒を対象に行ったインタビュー調査と保護者を対象とした質問紙調査を分析・検討したものです。分析結果から、保護者、生徒ともに、部活動と部活動に関連する大会やコンクールを楽しみにしていること、部活動そのものや部活動を通じた友人との関わりを楽しんでいること、周囲からの評価や大会やコンクールの賞への期待などが生活上の自信や意欲につながっていることなどがわかりました。つまり、日々の教育活動が充実することに加え、地域やより広い世界との関わりが知的障害のある生徒たちの生活を充実させる要因となるということができると考えられます。

さて、皆さんは自分のQOLについて高いと思いますか？それとも低いと思いますか？

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要143号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリクエリ(KUERe)の森 <https://ir.kyokyo-u.ac.jp/> に掲載されています。

#### 開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2024年2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

2/3 大学院入試(学外者利用不可)  
2/5-2/9 後期末試験  
2/25-2/26 前期入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

2024年3月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3/6 館内整理日  
3/12 後期入試  
2/25 卒業式

●京都教育大学附属図書館ホームページ  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>  
(QRコード→)



京教図書館 News No.281 (2024年2月号)  
発行日:2024年2月1日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp